

平成30年3月霧島山(新燃岳)噴火に伴う対応

平成30年3月27日
砂防部

- 霧島山(新燃岳)では、16日から24日まで、爆発的噴火は見られていなかったが、25日に再び爆発的噴火が発生したほか、同日に3月1日以降では初めてとなる火砕流が発生し、火口の中心から西側へ約800m流下した。(噴火警戒レベルは3が継続)
- 九州地方整備局が26日に実施したヘリ調査では、火口周辺斜面のほかは、火山灰の堆積は認められなかった。また、火口縁を乗り越えた溶岩(9日以降、乗り越えて移動していることを確認)の範囲は、幅、長さとも前回調査時(3月14日)よりも広がっていることを確認した。火口の西側の斜面では、火砕流が流下した跡とみられる燃え残った立木を確認した。今後も火山の状況を注視しながら観測を継続。

